

特 67

231



山田流
筆曲新譜

吾子

宮

北

曲

日

遊



調子合せ法

箏の調子はオルガン及び十二律調子笛又は近時発明の坂本式琴調子笛に依りて合せる事を得べし其方法は下図に示す如く箏の絃をオルガン又は調子笛の音名と全し音とふるよりに琴柱を据へる者なり假令へは平調子をオルガンにて合せるにはオルガンの音名の(イ)と琴の絃の第一と第五絃と全音にふる様に琴柱を据へ(ニ)を第二絃に(ホ)を第三絃に(ヘ)を第四絃に(ロ)を第六絃に斯くして漸々下図に示す通りに合せる者より其他の諸調子と此と全一方法にて下図に示す如く調律する事を得べし

| 調子 | 琴の絃名 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 斗 | 為 | 中 |
|---------|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平調子 | オルガン音名 | イ | ニ | ホ | ヘ | イ | ロ | ニ | ホ | ヘ | イ | ロ | ニ | ホ |
| | 十二律調子笛音名 | 黄 | 一 | 平 | 勝 | 黄 | 鶯 | 一 | 平 | 勝 | 黄 | 鶯 | 一 | 平 |
| | 坂本式琴調子笛音名 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 |
| 半雲井調子 | オルガン音名 | イ | ニ | ホ | ヘ | イ | ロ | ニ | ホ | ト | イ | ロ | ニ | ホ |
| | 十二律調子笛音名 | 黄 | 一 | 平 | 勝 | 黄 | 鶯 | 一 | 断 | 双 | 黄 | 鶯 | 一 | 平 |
| | 坂本式琴調子笛音名 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 |
| 雲井調子 | オルガン音名 | イ | ニ | ホ | ト | イ | ロ | ニ | ホ | ト | イ | ロ | ニ | ホ |
| | 十二律調子笛音名 | 黄 | 一 | 断 | 双 | 黄 | 鶯 | 一 | 断 | 双 | 黄 | 鶯 | 一 | 平 |
| | 坂本式琴調子笛音名 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 |
| 晴(中座)調子 | オルガン音名 | イ | ニ | ホ | ヘ | イ | ロ | ハ | ホ | ヘ | イ | ロ | ハ | ホ |
| | 十二律調子笛音名 | 黄 | 一 | 平 | 勝 | 黄 | 盤 | 神 | 平 | 勝 | 黄 | 盤 | 神 | 平 |
| | 坂本式琴調子笛音名 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 |
| 占令調子 | オルガン音名 | イ | ニ | ホ | ト | イ | ロ | ニ | ホ | ト | イ | ロ | ニ | ホ |
| | 十二律調子笛音名 | 黄 | 一 | 平 | 双 | 黄 | 鶯 | 一 | 平 | 双 | 黄 | 鶯 | 一 | 平 |
| | 坂本式琴調子笛音名 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 |

備考 山田流ノ雲井調子ハ中ノ絃ハ平調子ノ(イ)ナルモ生田流ハ半音下ゲテ(イ)ノ(断)ノ(鶯)トナスコトナシ

音符休止符左右手法其他之記号

| 音符 | 再附点音符 | 附点音符 | 再附点音符 |
|--------|-------|------|-------|
| 全音符 | ●● | ● | ●● |
| 五〇〇〇 | | | |
| 二分音符 | 〇 | | |
| 五分音符 | | | |
| 四分音符 | }}} | }} | |
| 五分 | | | |
| 八分音符 | | | |
| 五分 | | | |
| 十六分音符 | }}} | }} | |
| 五分 | | | |
| 三十二分音符 | }}} | }} | |
| 五分 | | | |
| 附点音符 | ● | ● | ● |
| 再附点音符 | ● | ● | ● |

明治 45.6.29 内

(二)

| | | | |
|---------------------------------|--|--|---|
| 右手法 | 合せ爪以下半拘爪に至る迄を古來右手十七法と稱せり此十七法の記号にも音符の記号を附記して長短を示す | 輪 ^ワ 連 ^ズ | 中指の爪の右側にて第一絃を左方に向て其手の形状恰も輪を畫くが如く(シユウ)と拂ひ撫する者なり若し他の絃を撫すべき時はワの上部に其絃名を附記す |
| 拇 ^マ 指 ^シ | 拇指を用ひ可き場合は只琴の絃名のみを記し別に記号を附せず運指法は排爪の外は巾の方より第一絃の方に向て彈す可き者にて彈奏上此指を使用する事最も多し | 引 ^ヒ 連 ^ズ | 中指に示指を添へ第一絃より巾の絃まで引き終る者にて最初の二絃と最終の二絃は強聲に中途は弱音に撫するを通則とす左圖一例は一より巾迄引き終る者にて二例は十の絃にて止まる可き場合を示す |
| 示 ^シ 指 ^シ | 絃名の上部に を附して記号とす運指法は第一絃の方より巾の方に向て彈すべき場合多し左圖は第五絃なり | 半 ^ハ 引 ^ヒ 連 ^ズ | 引連と全一の彈法なれども中途の絃即ち五六の絃より初め巾の絃にて終る者とす其中途にて止まる時等は引連の記号法に全し |
| 中 ^チ 指 ^シ | 絃名の上部に を附して記号とす運指法は示指に同じ左圖は第五絃の場合を示す | 引 ^ヒ 捨 ^テ | 引連と全一の彈法なれども第一絃より中指示指にて彈じ中途に及び中指を除き只示指のみにて巾の絃まで引き終る者とす其中途の絃にて止まる時等引連の記号法に全し |
| 合 ^カ せ 爪 ^ツ | 拇指と中指又は示指にて甲乙二絃を同時に彈する者なり左圖は十五の両絃を中指と拇指にて彈す可き合せ爪也 | 割 ^ワ 爪 ^ツ | 最初示指にて或る二絃を掻き次に中指にて次の二絃を(第一絃の方に當る絃)掻き最後に拇指にて或る一絃を彈する者とす而て示指及び中指にて掻くべき絃は拇指にて彈すべき絃より中間に三四絃を隔てたる第一絃の方の絃とす(俗にシャシャテント云ふ) |
| 振 ^ヒ き 手 ^テ | 中指に示指を添へ第一二絃を巾の方に向て(シャン)と掻く者とす若し他の絃を掻く可き時は 9 の上部に其絃名を附す即ち 9 ^マ 等の如し | 波 ^ハ 反 ^カ | 最初中指示指にて第一二絃を掻き次に巾爲の絃を中示指の爪裏にて左方に向て撫し終りに最初の如く一二絃を掻く者とす而て第一回目を表二回目を裏三回目を表と稱す時として二回目の裏より始め三回目の表にて終るこどあり即ち左圖一例及二例の如し |
| 運 ^ウ (一名裏連) | 中指示指は爪の裏にて拇指は爪の表にて三指同時に巾の方より第一絃の方に向つて撫する者にて俗に(サーラリン)と云ふ而して其最終の絃は拇指のみにて彈する者とす左圖一例は巾より一まで撫し終る者二例は五の絃にて止まる者なり | 波 ^ハ 反 ^カ | |
| 流 ^リ し 爪 ^ツ | 拇指の爪角にて巾より第一絃の方に向て走らす者にて俗に(カーラリン)と云ふ而して最初の二絃と最終の二絃は強音に中途は弱音に彈するを普通の法則とす左圖一例は巾より第一絃まで撫し終る者二例は第五絃にて止まるべき者なり | | |

(三)

| | | | |
|--|--|--------------------------------|---|
| 排 ^ハ 爪 ^ツ | 中指の爪と其指頭との間に或る一絃をはさみ最初左方に次に右方に向て(ズー)とする可き者とす左圖一例は四の絃を左方に二例は四絃を左方に向て擦る者なり | 半 拘 爪 | 拘爪と同一の手法なれど只示指にて彈する絃のみは二分音符にて彈する者とす左圖は十拘の半拘爪にして示指は六の絃のみを彈して七絃を彈せず此外向半、短半、等の種類あれども詳説の要無し |
| 排 ^ハ 爪 ^ツ | 中指の爪の裏角にて或る絃を一絃の方より巾の方に向て下より上に(リン)とすくふ者とす左圖は第五絃の場合を示したる者とす | 左 手 法 | 右手にて彈する絃音に時々高低其他の變更を生せしむる者にて古來八法の稱あり |
| 押 ^オ 合 ^カ せ 爪 ^ツ | 乙甲二絃の第一絃の方に當る絃を手前の絃音と同音となる迄押しつゝ二絃同時に(ツレン)と彈する者なり左圖は五の絃を押しつゝ六の絃と同時に彈する場合を示す | 掩 ^ウ | 或る絃を彈したる后ち其余音を高上せしむる者にて其一音高くなる様に押と半音高上せしむる様に押との二種あり共に右手にて彈したる后ち其余響と左手にて押し高むる者にて左圖一例は五絃の一音二例は半音掩なり |
| 散 ^{サン} 爪 ^ツ | 中指の爪の右側にて第一絃を(シユウ)と擦る者にて輪連に似たり然ども輪連は輪の廻るが如き手法を爲し散爪は絃の位置を距る上方二三寸の處より下手する者とす左圖は第一絃の散爪を示す | 押 ^オ | 或絃を初めより押して彈する者にて左手の示指中指を併用す又甲乙二絃に跨りて二絃共に押べき時は手前の絃を拇指にて向ふの絃を中指示指にて押す之を(カケ押)と稱す左圖一例は五絃の半音二例は一音の押とす |
| 拘 ^ク 爪 ^ツ | 俗に(カラカラテン)と稱する者にて最初或る一絃の上に拇指を置き其絃より算へて五本向ふの絃に示指を掛け手前の方に向つて二つの絃を弾ト次に拇指の絃より算へて六本向ふの絃に中指を掛けて同じく二つの絃を弾し終りに拇指を置きたる絃を彈する者とす而て其拇指にて彈する絃の名に従ひ十拘八拘等の名あり左圖は十拘の場合を示す其音長は通常四分音五個にて彈す | 控 ^コ | 或絃を彈したる后左手中指の頭にて其絃を突き其余音を高上せしむる者とす而て掩は其余音を押し止め控は急に放つの別あり左圖は第五絃の控なり |
| 早 ^ハ 拘 ^ク 爪 ^ツ | 拘爪の音符の早き者にて通常四分音符一個と八分音符四個即ち三拍手の間に彈し終る者多し而て拘爪及早拘爪は拇指示指中指の記号を知れば別に何の記号も要せず | 臙 ^ウ | 或る絃を彈したる后左手示指中指にて其絃をつまみ右方に向つて引きゆるめ其余音を半音程低下せしむる者とす左圖は第五絃の臙なり |
| | | 重 ^カ 押 ^オ | 或絃を彈し押して放ち又急に押し止むる者とす左圖は五絃の場合を示す |
| | | 揺 ^ユ 吟 ^{イン} | 或絃を彈し其音と動搖せしむる者にて控を數回重ね最後に押し止むる者なり左圖は第五絃の場合を示す |

春宮曲 平調子

三千とせよふるてふ 桃乃花の顔ひらくや露の玉のるにたまのかんざ
 志さす月夜乃玉志く宮のまひの袖唐のやまと地ありものは梅に
 ぼたんにも名もか月る都言季はすいも草あづまはだてのかもたかやはい
 まつはる、葛かづらにはふ花ひ志ふき自を冥加ありける此殿のみすのひま
 もる春風のさむさまのげとめぐみもあつた君がたまの重ねていくへ子代
 にハ子代も茶えつきせじ

三 七 x 〇 奏 } 奏 九 八 奏 〇 } 〇 七 三 八 三 八 九

十 十 九 八 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇

七 〇 八 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇

九 八 九 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇

五 十 五 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇

十 九 八 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇 } 〇 〇 〇 〇

(四)

| | | | |
|----------|--|--|--|
| 押放 五ホ | 或絃を押して弾じ急に其手を放つ者にて左圖は第五絃の場合を示す | 濁音法 | 左手示指の頭を弾すべき絃の琴柱より右方の絃下に入れ其爪の上面を少しく絃に觸れる様になし其絃を右手にて弾する者とする左圖は十絃のときを示す |
| 左手弾法 | 左手示指の頭にて一絃の方より巾の方に向て(リン)と弾すべき者にて右手と交互に弾すること多し左圖は第五絃の時を示す | 十タ | |
| 左五 | | 段落及ビ終止記号 | 楽曲中の一段落を示すものを段落記号と稱し縦線二個 を用ひ楽曲の終止を示すを終止記号と云ひ縦線三個即ち を用ひて之を示す |
| 強弱記号 | 音の強弱を示すには曲譜を小節と名くる單縦線 を以て區別し其區分中の何位目の音は強又は弱に彈すべきを示す此小節の内の音符は何れの小節も合計上全一の拍數たる者とす斯の如く其強又は弱に當る音符を明示するを拍子と云ふ拍子には其種類數多有れども斯には箏曲に必用の分のみと掲ぐ | 速度記号 | 楽曲進行の速度を示し或一部分を特に長く或は短かく彈すべきを示す者にて左記の如く樂譜の上部に記す |
| 四分ノ四拍子 | 一小節中に四分音符四個又は合計上四分音符四個に相當する音符及休止符を有する者なり此小節中の第一位の絃は強音に第三位の絃は中強に第二位と第四位の絃は弱音に彈すべき者とす | 備考 或る小節中に在る音符の長さが次の小節に跨ることあり斯の如き場合は次の小節に跨るべき音長は休止符を記して之を補ひ兩節にかけて上部に一を施す即ち下の如し 五ノは五と全音長にて五ノは五と同一音符なり 其他此例に全しとす | |
| 八分ノ四拍子 | 一小節中に八分音符四個又は合計上之と全等なる音符又は休止符を有する者なり其強弱は四分の四拍子と全位置の音符とす | | |
| 雜記号 | 以上の諸法に漏れたる記号にして最必用の者のみを掲ぐ | | |
| 延長記号 | 或る音符又は休止符を規定の長さの貳分の一以上貳倍迄隨意に延長する事を得る記号にて左圖は五絃の場合也 | | |
| 特強記号 | 楽曲中或る音符のみを特に強又は弱音に彈すべき記号にて強音の時ハ音符の上部にハを附し弱の場合ハVを附記す此弱音は箏曲に於ては横爪と稱せり | | |
| 十 九 十 | | 不詳ハ發行所宛返信料ヲ添へ照會アラハ之ガ解答ヲナスベシ | |

わら—が—あり—け—る—大の—
ツン トン トン ナー トン ナー トン ナー トン ツン ツー トン
 帛 } 八八 | 巾〇八 } | 巾〇巾 | 為斗斗〇 | 斗 }

と—の—の みす—の—ひま—も
チン チン チン ツン チン ツン ナー トン ツン ナー トン ツン ツー トン
 巾 | 為斗十 } | 八九 壹〇 | } 斗 〇 | 九 } 為 巾

—る—はる かせ—に さむ—さ
ロ ツン ナー トン ツン ツン ナー ツン コー ロ ツン ツン ナー ツン
 為 | 斗十 五 九 | 十斗 為斗 | 十 九 八 } | 〇 為斗 } | 斗

—まの—げ—と —めぐ—み—も—
チン ツン チン ツン チン コー ロ ツン ナー トン ツン ツン
 十 九 十 | 斗 為 十 九 八 } | 壹 〇 | } 七 七 } | } 七 七

—あつ—き—きみ—か—たま—
ツン ツン ナー ツン ナー ツン ツン ツン ツン ツン
 〇 | } } 九 } | 十 七 壹 } | 六 〇 } 六 | 六 } | } 十 〇

も の —かさ—ね て—いく—
チン トン カラ リン ツン ルン ツン ナー ナー ナー ツン ツン ツン
 斗 六 五 六 十 | 九 九 } | 十 | 〇 / 為 斗 斗 | } 十 斗 九

へ らよ—に やらよ—も
チン ツン ナー トン コー ロ ツン ナー ツン ナー ツン ナー コー ロ ツン
 十 } 斗 為 | 八 / 巾 為 斗 十 | 九 十 斗 為 | 十 九 八 七 | 八 }

さか—え—つ—き—せ—ま—
ツン ツン ツン チン チン チン コー ロ ツン ナー トン ツン
 〇 九 | 十 } 斗 十 | 為 } 巾 為 斗 | 斗 十 〇 | 十 九 〇 } 壹 〇 ||

子日遊 前(半雲井調子) 而(平調子)

初春の初子日野辺に皆人のいぎとまいへば誰共をわれも申れ向のふ
 松原ニ葉に各代をひれそへてまどろしつゝも杯にくむやかすみのそ
 なたふる岡べの栞もあたらまき年の葉へと見せが得るたのしもとれを
 らかたの一むら竹のうぐひすのも、よろまじはけふよりと考たてそめつ
 のどかなる浙代の春とて死ぬるも君れも共にかくあつ心ゆく野をとふ
 が焼じさ

ツン ツン ツン ツン ツン ツン ツン ツン
 斗 〇 為 } | 七 為 為 為 為 } | 斗 為 斗 為 | 八 九 七 八

リン ツン リ ナー ツン ツン ツン ツン ツン ツン ツン
 為 為 | 為 巾 為 斗 十 斗 | 六 五 十 九 八 七 | / 十 九 八

トン コー ロ ツン ツン ツン ツン ツン ツン ツン ツン
 七 六 五 斗 } | 〇 〇 | 為 斗 十 斗 九 | 八 九 七 } | 壹 〇

初春の — はつ —

ツン ツン ツン ツン ツン ツン
 壹 } 壹 〇 | } 七 九 為 } | 〇 〇 | / 巾 為

ね — の — のべ—に—みな—ひ
リン ツン ナー トン ツン ツン ツン ツン ツン
 斗 斗 為 | 十 〇 } 壹 壹 } | 十 九 五 } | 為 十 | 九 十 /

— の のぎ — と — ま — い — へ
コー ロ ツン トー トン ツン ツン ツン ツン
 十 九 八 | 二 〇 七 } | 〇 斗 / 為 十 | 九 斗 十 九 八 }

(六)

子日遊

ば — もろ — ど — も — に これ — も —
チン ツン チン テン チン ツン トン トン コーロ リン ション チン ツーシ ツン チン
 七交 | 七九斗 | 三三七六 | 五 } う為 | 斗〇斗十 |

— 申き — ま の — ま — ま っ —
チン トン トン テン チン チン トン テン ツン トン カ ラ リン サラ
 九 } 曲曲 | 九 } 十九 | 五 } 十斗 | 七九斗為 } |レ

— ば — ら 合
リン チン ツン テン ツ テ ト チ ナ リ ナン ツ テ ト ナ ナ リ ナン
 為 為 斗 | 十斗 | 為 七 為 為 為 為 | 為 斗 為 七 為 為 為 | 為

ナ テ ト ナ テ テ ツン テ レン テ ナ テン テ ション ツン ナン
 } 中 為 六 斗 | 十九 八 九 九 九 | 十九 九 う 為 為 }
 七

チ リ ト ツ テン トン カ ラ リン ナ ツ ナ テ ツン テ ナ ツ レ
 為 為 七 斗 | 為 七 六 七 斗 為 斗 | 十九 八 九 十 斗 斗 |

ソ テ ツン ツ ト コーロ リン ツン ナ ナ ナ ナ ナン ナ ナ ナ
 斗 九 八 八 七 六 | 五 交 | 七 七 七 七 七 | 七 } 七 七 七

ナ ナン チ ツ コーロ リン テン チン テン トーシ テーシ ナン
 七 七 | 七 十九 八 七 六 | 五 } 十 七 | 五 〇 } } | 十 〇 う

— に — ら よ — と ひ 紀 そ へ て — ま 〇
チン ナン チン ツン テン チン ナン ナン コーロ リン テン ツーシ テン
 九 | 十 } 為 斗 | 十 } 九十 | } 斗 十 九 八 七 八 〇 七

子日遊

(七)

あ ま つ つ も や か づ き に く む — ヤ —
ジャン テン チン ツーシ ツン テン ツン テン ナーシ チン テン ツン チン
 う 九 } 十 | } 斗 〇 斗 | 十 } 斗 為 | 為 〇 為 為 | 斗 為

か ず — み — の — そ な —
テン ツン サラ リン テン テン ナン トーシ ツン ナーシ ツン テン
 為 } 九 } 七 九 | 九 } 九十 | 六 〇 斗 } | 為 〇 斗 十 |

— た — な — — る — — を か ベ
テン テン ツン ナ テン テン ショーシ ナーシ ナーシ ナン
 九 } 十 斗 | / 為 十 十 } | う 〇 為 〇 | 七 〇 } } | 為

の — ら め — も — あ た — ら —
ナーラ リーシ ツン テン ツン テン ツン ツーシ トン ナン
 } 七 〇 | 交 〇 } 交 七 } 交 七 } | 八 八 九 | 五 十 }

志 紀 (ハ絃半音上ゲ) と 志 — の や か え — を
ツン ツン ション テン ナーシ ナン ナン トン トン ナン テン ツン ション
 八 斗 | 八 } 七 七 | 〇 } 〇 } 〇 } 六 六 斗 | 十 九 〇

み せ — か ほ — に は ぶ —
ツン テン ナン トン コーロ リン ツン テン ツーシ ナン ナン リーシ
 } 斗 為 | 中 五 十 九 | 八 } 九 十 | 斗 〇 斗 } | 八 〇 }

の — ひ も — と 紀 — — を ち — か — た
ツン ショーシ リン ツン ツン テン ツン ツーシ ナン トーシ テン ツン
 斗 | 十 〇 中 } | 斗 斗 十 九 | 九 〇 九 } | 三 〇 八 } | 九

の
テン コーロ リン テン ナーシ トン テン ナン ナン トン テン コーロ リン テン
 十 斗 十 九 | 八 } 〇 | 九 十 〇 中 | 七 為 中 為 斗 | 十

(八)

子日遊

ひとむら だけ

為中 中 〇 〇 〇 } 中 〇 } 中 〇 } 十 九 十 〇 }

に ら ぐ ひ す の

中 中 為 斗 七 為 中 〇 中 為 中 為 斗 〇 〇 〇 } 斗 }

も ろ

斗 斗 〇 〇 〇 } 十 三 八 八 〇 } 〇 八 八 } 八 九 }

ひ は け ふ よ 〇 と

〇 九 八 七 } 八 〇 六 五 十 九 八 } 〇 〇 〇 〇 〇 〇 }

と ぶ た て そ れ つ の ど か

十 } 〇 九 十 為 斗 十 九 十 九 八 } 六 五 六 十 }

な る

九 五 十 〇 } 中 為 斗 為 十 〇 } 中 中 中 } 斗 斗 }

斗 } } 中 中 中 斗 斗 斗 中 中 中 斗 斗 斗 〇 〇 }

みよの春とて老ぬる

中 為 八 中 〇 中 中 斗 斗 十 〇 }

子日遊

(九)

お か き も と も に かく 志 つ

八 八 八 八 八 八 } 十 九 十 五 斗 十 斗 十 六 }

つ ぶ ま ろ 〇 〇 〇 〇 〇 の を と ぶ が

斗 為 中 為 斗 十 九 十 斗 為 十 九 八 七 〇 〇 〇 〇 }

う れ 志 〇 〇 〇

斗 為 十 八 〇 〇 〇 } } 〇 〇 } }

井上胡蝶著

生田流 箏曲新譜

| | | | |
|---|----|--------|---------------|
| 定 | 卷一 | 金壹圓參拾錢 | 送料各六錢代金引替拾六錢増 |
| 價 | 卷二 | 金壹圓拾錢 | |
| | 卷三 | 金壹圓拾錢 | 海外全卅四錢増 |

曲目譜曲 生田流

(卷一參版) 四季の花、門松、鶴の聲、黒髪、六段、亂の曲、八段、金剛石、夕顔、新高砂、越後獅子、千鳥、茶音頭、春の曲、小督、以上十五曲

(卷の二) 春日影、朝外出、六段前歌、難波節子、末の契、松竹梅、殘月、秋風、八重衣、飛燕の曲、以上十曲

(卷の三) 松盡し、萬歳、八千代獅子、雪、九段、巖上の松、新雪、月花、凱旋喇叭の曲、四季の詠、夏の曲、秋の曲、以上十二曲

井上胡蝶著

大新版 家庭音樂新譜 箏曲の葉

| | | |
|------|-------|------|
| 第壹卷 | 定價金壹圓 | 送料六錢 |
| 代金引替 | 拾六錢増 | |
| 海外全 | 參拾四錢増 | |

曲目譜曲 大新版

山田流 數へ歌、四季の花、荒城の月、戰友、門松、ことぶき、春雨(山田流)、六段、七門、瀧盡し、御製の曲、水は器、千鳥、

菊水(山田流)、那須野(山田流)、御國の響、

○兩書の特色

- 一、各調子の合せ方を初め音符休止符左右手法其他彈奏に必要な事項は悉く記載し行文平易説明懇切を極め恰も師匠に就きて直接學ぶか如し
- 一、本書の樂譜は洋樂に通ぜざる人にも容易に彈奏し得らるべし且つ全部言樂記号を附記しあるにより少しも音符を解せざる人にも直ちに了解し得るのみならず自然の間に完全なる樂則を覺へ得らるるなり
- 一、本書の購讀者は萬一曲譜不詳等の際返信料を添へ質問あらば無料之か應答をなすべし
- 一、これは苟も琴を學ばんと欲する人又は一度習ひも忘れたる人等は必ず見給ふべき最も文明的にして最も見易き好練習書なり

發行所 福岡市外馬出一一〇三 箏曲通信教授所

發賣元 福岡市中島町九番地 積善館樂器部

何れも説明付
譜本少印刷鮮明体裁美意
新譜

| | | | | | | | | | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 山 | 那須 | 柔水 | 江島 | 住吉 | 松鶴 | ほり | 四季 | 初若 | 春日 |
| 空價金四拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 | 全拾錢 |
| 送 | 送 | 送 | 送 | 送 | 送 | 送 | 送 | 送 | 送 |

明治四十五年六月二十日印刷
明治四十五年六月二十七日發行
定價金拾五錢

不許複製

發行所 全縣全國合村全學全番地
福岡市中島町九番地

印刷者 高見章

發行者 井上才藏

發賣所 福岡市中島町九番地
大坂市心齋橋通平野町角
松本樂善館會社出張所
東京市麻布区新堀町一三九番
三共堂 山本湖舟
吉川信電傳信所

東京音樂學校作曲科教授大檢校山口菊次郎先生御贊助
坂本湖月先生授所御撰定 (保險附) 體裁高尚優美桐箱入

新二案一
持四〇
許號

ニッケル製金管圓五拾錢 特別製式圖 (送料不要) 詳細説明書添附

調子三年と云ふは最早取除けられたり此調子笛によるは平調子本
雲井半雲井古今曙、中空、岩戸、さては小督秋風ラツバ軍人御製はとま
す等如何なる六かしき新舊歌曲の調子をも容易に合わす事を得るなり又
専門家は教授用に作曲用に應用無限真に筆曲界の明星なり苟も樂曲にた
すさわる人は必らず座右の珍とせられんことを希ふ

坂本湖月先生考案 (保險附) 丁裁高尚優美桐箱入

新案
則十二律調子笛

六) ニッケル製 金管圓五拾錢 三) ニッケル製 金八拾錢 (送料不要)
立本特別製 金管圓八拾錢 立本特別製 金壹圓

坂本湖月先生考案 (保險附) 丁裁高尚優美桐箱入

新案
式新
バイオリン調子笛

四連 金 六拾錢 送料不要

在來の調子笛は使用頗る困難加ふるに高調子なるため初學者
は調律の際屢々糸を切り駒を倒す事あり本新式調子笛は遺憾
なく之等の缺點を補ひたるものなり使用輕便にして調律誠に
爽快なり

無代進呈 琴調子笛説明書十二律調子笛説明書郵税
貳錢御送附アレハ進呈ス

福岡市中島町九番地

發賣元 積善館樂器部
振替福岡八一番 電話四三番

新案
則十二律調子笛

六) ニッケル製 金管圓五拾錢 三) ニッケル製 金八拾錢 (送料不要)
立本特別製 金管圓八拾錢 立本特別製 金壹圓

從來行わる、調子笛は音律不正確にして狂ひ易きは音樂家の一般に認む
る處なり此度新考案の正則十二律調子笛は音律極めて嚴正にして尙獨特
の裝置あれば調律永年變化する事なし而して使用輕便爽快を極む且つ組
替又は取外し等自由にして實に理想的なり笛には一々和洋の音名を記し
尙は調子の合せ方及音聲に関する詳細なる説明書を添附す

琴曲振興會編

梅の巻櫻の卷全二冊
定價金八十五錢
郵税金八錢

梅と櫻の両書を御覽になれば新舊歌曲の唱歌がすつかり
御分りになります

新案
則十二律調子笛

六) ニッケル製 金管圓五拾錢 三) ニッケル製 金八拾錢 (送料不要)
立本特別製 金管圓八拾錢 立本特別製 金壹圓

琴曲歌集

梅の巻櫻の卷全二冊
定價金八十五錢
郵税金八錢

